

イデックスオイルレポート ~For a month~

株式会社新出光

【月次概況】

●第1週、1/2のWTI原油は、先週比0.58ドル高の57.32ドルとなった。  
年明け初の取引は軟調地合いに終始した。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」の増産などを背景に需給緩和懸念が強まり、相場は2025年、約20%下落。OPECプラスは昨年11月末の会合で、サウジアラビアなど有志8カ国による26年1～3月期の増産停止を再確認した。

●第2週、1/9のWTI原油は、先週比1.8ドル高の59.12ドルとなった。  
イランの首都テヘランでは昨年12月末に経済低迷に対する抗議デモが始まり、その後全土に波及。一部のデモ隊は体制打倒を求め、治安部隊との衝突が激化している。英拠点のインターネット監視団体「ネットブロックス」によると、イランでは8日夜からインターネットがほぼ遮断された。

●第3週、1/16のWTI原油は、先週比0.32ドル高の59.44ドルとなった。  
ニューヨーク・タイムズは15日、米原子力空母「エーブラハム・リンカーン」を中核とする空母打撃群が展開中の南シナ海から中東に向けて移動を開始したと報道した。イラン指導部への圧力を強めるためとみられ、エネルギー供給が混乱するとの懸念が再燃し、原油が買われた。

●第4週、1/23のWTI原油は、先週比1.63ドル高の61.07ドルとなった。  
米財務省は23日、イラン政府の反政府デモ隊への弾圧を理由に挙げ、イラン産石油・石油製品の輸送に関わる9隻の船舶と8つの関連企業に対して新たな制裁を課したとの声明を発表した。

●第5週、1/30のWTI原油は、先週比4.14ドル高の65.21ドルとなった。  
トランプ米大統領は30日、米連邦準備制度理事会(FRB)次期議長としてケビン・ウォーシュ氏を指名すると発表した。ウォーシュ氏は次期FRB候補の中では相対的に「タカ派」として知られていることから、FRBが今後利下げに動きにくくなるとの観測が高まり、ユーロを中心に対主要通貨でドル買いが先行。

	1月平均	WTI原油	60.26ドル	前月比	2.40ドル	為替 1ドル	157.78円	前月差	0.83円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	出光興産	変動幅	ENEOS	変動幅
1/1～1/7	17.1/5.0		±0		±0
1/8～1/14	17.1/5.0		+0.5		+0.5
1/15～1/21	17.1/5.0		-0.5		-0.5
1/22～1/28	17.1/5.0		+3.0		+3.0
1/29～1/31	17.1/5.0		-0.5		-0.5

左から軽油/灯油重油

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2025年10-12月C重油決定価格	82,870	86,820	【 82,870(メニュー)+ 3,950(プレミアム) 】
	2026年1-3月C重油仮価格	79,180	82,270	【 79,180(メニュー)+ 3,090(プレミアム) 】
	2026年1-3月C重油決定価格			【 82,870(メニュー)+ 3,950(プレミアム) 】
	決定価格 前期比	-82,870	-86,820	

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油
	2025年10-12月決定価格	92,220	98,500
	2026年1-3月仮価格	87,670	
	2026年1-3月決定価格		
	決定価格 前期比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	25/10	9桁速報	69,889	74.29	149.57	2,092
	25/11	9桁速報	68,598	71.21	153.14	-1,291
	25/12	最終予測	67,009	68.33	155.91	-1,589
	26/1	展望	65,304	67.42	154.00	-1,705

【次世代エネルギー】 〈 JERAが国内初のアンモニア供給網 燃料価格低減へ異業種と連携 〉

JERAは2029年度までに、愛知県碧南火力発電所を拠点とした国内初のアンモニア供給網を整備する方針である。同社は液体アンモニア4万トンを保管可能な大型タンク4基を建設中で、29年度には石炭とアンモニアの2割混焼による商用運転を開始し、年間100万トン規模の需要創出を目指している。アンモニアは燃焼時に二酸化炭素を排出しない脱炭素燃料であり、水素と比較して輸送が容易な利点を持つ。本事業の核心は、自社発電用だけでなく豊田自動織機やAGCといった異業種への外販も行うことで、調達規模を拡大し、高止まりする燃料価格を抑制する点にある。これはJERAが液化天然ガス事業で培った、上流権益の確保から輸送、販路拡大までを一貫して手掛けるビジネスモデルの再現を狙ったものである。原料となるアンモニアは、米国ルイジアナ州で生産過程の二酸化炭素を回収・貯留するブルーアンモニアとして調達され、日米両政府の支援策も活用される。

一方で、世界的な資材高や金利上昇によるコスト増、需要不足による市場形成の遅れ、さらにアンモニア特有の毒性管理といった課題も残る。JERAは中部圏の企業20社以上や自治体との連携を深めることで、投資リスクを分散しながら脱炭素事業の収益化を急ぐ構えである。こうした異業種連携による供給網の構築は、日本のエネルギー転換における重要な試金石となる。

【2月価格変動要因】

1.イラン情勢と原油価格への影響  
デモ弾圧や米国の軍事介入リスクにより原油価格は底堅いものの、過去の傾向から地政学リスクは短期間で沈静化する可能性が高く、石油施設のストや内戦化が真の警戒材料になる。

2.ベネズエラおよび中国の需給動向  
ベネズエラの供給減は市場に織り込み済みで影響は限定的ですが、中国が旧正月に向けた備蓄を継続していることが原油価格を下支えする要因となっている。

3.米金融政策と新FRB議長人事  
利下げ論者のウォーシュ氏が次期FRB議長に指名されたことで、極端な利下げ期待が後退して貴金属が下落する一方、原油はテクニカル的な過熱感を見せつつ高値圏で推移している。

＜1ヶ月価格見通し＞ (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	72	68
Average	67	63
Low	62	56

＜3ヶ月価格見通し＞ (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	73	69
Average	66	61
Low	58	53

日付	国	2月経済指標カレンダー	日付	国	2月経済指標カレンダー
2	米国	1月ISM製造業景況指数	10	米国	10-12月期四半期雇用コスト指数
4	ユーロ	1月消費者物価指数	11	米国	1月消費者物価指数
4	米国	1月ADP雇用統計	13	ユーロ	10-12月期四半期域内総生産
4	米国	1月ISM非製造業景況指数	16	日本	10-12月期四半期実質国内総生産
5	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利	17	米国	1月小売売上高
5	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見	18	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
6	米国	1月非農業部門雇用者数変化	20	日本	1月全国消費者物価指数
6	米国	1月失業率	25	ユーロ	1月消費者物価指数
6	米国	1月平均時給			